

- ◆企画名 三大学交流会（神戸学院大学、県立広島大学、関西大学）
日程 平成 27 年 2 月 25 日（水）
場所 総合学生会館凜風館 4 階 ミーティングルーム、チルコロ（懇親会）
参加者数 47 名（ピア・サポータ 13 名、研修生 4 名、教職員 3 名、学生支援室 TA2 名、
神戸学院大学 学生 17 名、教職員 1 名、県立広島大学 学生 6 名、教職員 1 名）

目 的

神戸学院大学、県立広島大学のピア・サポート活動を知ること、意見交換を通じて自分たちのピア・サポート活動を再考し、新たな気づきや発見を得ることで、今後のピア・サポート活動に対する視野を広げる。

また、KU サポーターズ、KUSP、KU ブリッジのピア・サポータと協力し、交流会の主催を担うこととなったので、コミュニティ間の連携のきっかけとする。

内 容

13:00 開会挨拶
13:10 アイスブレイク
13:40 活動紹介
14:50 ワーク「関大ピアをもっと知ろう」
17:00 意見交換
18:00 懇親会（チルコロに移動）

効 果

アイスブレイクでは、当初の目的通り、雰囲気や和ませることに成功した。また、インタビューゲームを行ったことで、一般的な自己紹介よりも詳しくお互いについて知ることができた。活動紹介では他大学の活動内容を知ることができた。ワーク「関大ピアをもっと知ろう」では、関西大学の各コミュニティの行っていることが具体的に伝えられた上に、活動紹介で説明できなかったことのフォローにもなった。また、関西大学ピア・コミュニティだけでは気づくことができなかつた異なつた視点、意見を聞く事ができた。意見交換では各大学におけるピア活動の違いを理解できた。懇親会では各企画で堅い雰囲気だったので和らいた。

改 善 点

アイスブレイクでは、参加者に対してのルール説明が不十分だったのでどう説明したら分かってもらえるか考えてできるだけ細やかな部分まで説明する。活動紹介では、参加者のいないコミュニティの活動紹介をもっと充実させる。ワーク「関大ピアをもっと知ろう」では、各ブースがわかりやすいように、コミュニティの名前が分かるようなサインボードのようなものを作っておく。意見交換では、情報共有不足だったので関西大学側の参加者全員の情報共有を細やかに行う。懇親会では、各大学に分かれて話し込んでしまっていたので、招待側である関西大学側が積極的に参加者に声をかけたりして、交流を円滑にできるように心がける。

感 想

・中々企画メンバーが集まらず、他コミュニティと何かを合同で企画することの大変さを痛感した。特にリハーサルの参加率が低く、準備不足になってしまった感じがした。
・学内へ行く活動が今までは多かつたので、学外へむけての活動を経験できてよかつた。
・異なつた視点、意見を聞くという意味では参考になつたが、各大学コミュニティの有りがちるので、今後の活動における参考にならない部分も多くあつた。